

## ミヤマガラス（カラス科） 全長47センチ

6月2日、田植え作業も最盛期を過ぎ終盤に入った。大きな区画の田んぼで、最後と思われる代掻き作業が行われていた。

大型トラクターの後を追いかけるカラスの集団がいた。ハシボソガラスでもハシブトガラスでもなく、大陸から渡ってきたミヤマガラスであった。クチバシが灰色であることから判別できます。群れで移動する習性から、日中に大集団のカラスを見かけたらミヤマガラスの可能性が高いといえます。

トラクターを追いかけて、脇で過ぎ去るのを待っている時も、ばらばらでなく並んでいるようにも見えます。統率が取れているようだ。



クチバシの色で区別されます。

集団で中国と日本を往復することから、旅ガラスとも言えないだろうか。

辞書で旅がらす（烏）とは、ねぐらをもたないカラス。旅から旅へと渡り歩く人、よその土地から来た人を卑しめていう語。とあった。野鳥のカラスとは関係ないようだ。失礼しました。



トラクターを追いかけてながら餌を探す。



並んでいるように見えます。



左から2番目はハシブトガラスだろうか。



クチバシの色がよく決まっている。